

令和OSAKA 天の川伝説2019

7月7日／大川・天満橋(八軒家浜)～北浜(天神橋)周辺

主催：おしてるなにわ 共催：関西・大阪21世紀協会

大川に浮かぶ「いのり星®」(八軒家浜より天神橋を望む)

八十島祭「招霊」のパフォーマンスを実施

七夕の夜、人々の願いを託した「いのり星®」(LEDを光源とする光の球)を天満橋一帯の大川に放流し、天空の天の川を地上に再現する「令和OSAKA 天の川伝説2019」。大阪の観光集客につなげるとともに、人々の心に愛と希望の光を灯したいという願いを込めて2009年(平成21年)に社会実験として行われ、以来、関係者の熱意によって継続され、夏の風物詩として定着してきた。昨年は西日本豪雨の影響で中止され2年ぶりの開催。第10回となる今回は、過去最多の7万個の「いのり星®」が放流され、約6万5,000人が幻想的な光景を楽しんだ。

天満の地名は「天に満ちる星」に由来し、かつて難波宮があった時代、天満は日本の平安を願って星に祈りを捧げる地だといわれていた。また、平安京に遷都された後、上町台地先端の難波津(なにわづ)では、新天皇即位の翌年に「八十島祭」が斎行された。

八十島祭は、天皇に遣わされた女官が大海原の風を天

皇の御衣(おんぞ)を受け、それを天皇に返上することで天皇の体内に「大八洲之霊(おおやしまのみたま)」を付着させ、国家・皇室の繁栄と安寧を祈る祭祀。平安時代前期の850年から鎌倉時代前期の1224年まで、22回行われたことが記録に残っている。主催者のおしてるなにわ・高島幸次理事(大阪大学招聘教授)は、「難波宮の時代には、天皇自らが御衣に風を受けたと考えられる。こうした重要な場所で、第10回目の天の川伝説が開催されることはとても意義深く、このイベントを通じて大阪には誇るべき神事があることを多くの人に知ってもらいたい」と話す。

今年、元号が「令和」に改まり、新天皇ご即位の翌年の令和2年に「八十島奉祝祭」を行う機運が高まっている。令和OSAKA 天の川伝説2019では、そのプレイベントとして、八軒家浜船着場の特設ステージで大阪天満宮の巫女による「招霊」のパフォーマンスが行われ、見物に訪れた人たちは、約800年前に途絶えた厳かな即位儀礼の一端を目の当たりにした。

今回は、オペラ歌手の増田いずみさんやヴァイオリニストのSHOGOさんたちによる「七夕コンサート」も行われ、美しい音色で来場者を魅了。ひこぼしくん(枚方市)とおりひめちゃん(交野市)のキャラクターも来場し、両市に伝わる「七夕伝説」や市の魅力をアピールするなど、賑やかな一夜となった。



生國魂神社の中村権禰宜の演奏による和琴(わごん)の管搔(すががき)の音色が響く中、厳かに行われた「招霊」のパフォーマンス(八軒家浜船着場・ひまわり船上)



ひこぼしくん(右)とおりひめちゃん(左)

七夕コンサート(八軒家浜船着場・ひまわり船上).....



増田いずみさん(中央)、安藤史子さん(フルート/右)、山口彩葉さん(ピアノ/左)



SHOGOさん(左)、モーリーさん(ギター/右)



大阪天満宮の湧き水「天満天神の水」を使用して関西大学が開発した梅サイダー「UME・TEMMA」。(天の川グルメストリート)



大阪発「天の川カクテル」(考案者「BAR CADBOLL」林壮一氏)が、「OSAKA Star River」に名称を一新。「マンハッタン」や「シンガポールスリング」のような地名を冠した世界的カクテルを目指す。(観光船ひまわりにて)



短冊に願いを書く入場者(八軒家浜会場)